

令和6年度 福島市文化振興審議会（第1回） 会議録

◆日 時 令和6年5月20日（月） 午後1時25分～午後3時20分

◆場 所 福島市役所庁議室

◆出席者 委 員：9名

初澤敏生会長、穴戸路枝委員、齋藤幹夫委員、清野和也委員、村川友彦委員、
高橋英子委員、丹野義明委員、高橋康委員、須藤康子委員

事務局：8名

◆次 第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議事（議長：初澤会長）
 - （1）説明
 - （2）協議
- 4 その他
- 5 閉 会

◆別紙1 「策定にあたって」「本市の文化をとりまく動向」について質疑応答なし

◆別紙2 「1. 本市の文化」について質疑応答・委員意見

【委員】

市内にある民間の展示施設のようなものとの関係は取り上げないのか。

【事務局】

民間施設について、市ですべてを網羅できていない状況もあるので、市文化振興計画では取り上げていない。ただ、市の文化の振興という意味では、その民間施設も当然活用されていくべきものではあると認識している。

【委員】

福島市と合併した飯野町の文化についての記載はあるのか。

【事務局】

「（1）歴史を伝える文化財」で文化的資源の例として示している「和台遺跡」のほか「石橋群」にも飯野町にあるものが含まれている。

【委員】

福島市にとって信夫山がシンボルであると同じように、飯野町にとっては千貫森にシンボリックな意味合

いがあるのではと思う。そういうものが計画にあれば、合併して一体となったというところも示すことができるのではと思う。

【事務局】

ご意見を踏まえて記載について検討していきたい。

【委員】

文知摺観音は市の名所だと思うが入っていないのか。

【事務局】

文知摺観音は市の指定文化財の1つになっている。市には国指定81件、県指定27件、市指定74件の文化財がある。紙面の都合上記載はしていないが、文化財としてないがしろにしているということではない。

【委員】

俳句や短歌などの文学関係や仏教美術、仏像などが入っていないと感じた。

【事務局】

別紙1の3ページ「文化の例」の「芸術」の区分の中に文学が入っている。また、「有形文化財」の中に彫刻、工芸品なども含まれている。委員からご発言のあったものについても、文化という大きなくくりの中に該当するものだが、具体的な記載はなかったのでご意見を踏まえて検討していきたい。

【委員】

文化財それぞれの名称も記載した一覧表は計画にはいるのか。

【事務局】

まだ具体的には考えていないが、例えば資料編のような形で計画の後ろの方に掲載するなどということも考えられると思う。少なくとも、市内の指定文化財の件数の表は入れなければならないと思っているが、指定文化財すべての名称なども含めて載せるかどうかについては今後検討していきたい。

【委員】

「(1) 歴史を伝える文化財」で文化的資源の例に「古民家」として、「旧堀切邸」「なかむらや旅館」が挙げられているが、なかむらや旅館は今も営業しているし、旧堀切邸はかなり市の方で整備を進めた施設である。これらを古民家と言っていいのか。

【事務局】

「古民家」の例について記載方法を含めて検討していきたい。

【委員】

「(2) 受け継がれる伝統文化」で載せる写真が決まっていなければ、飯野町の子どもたちが参加している伝統行事などの写真がいいのではないかと。合併された地域では小学校の統合が進んだ結果、子どもが減少して伝統行事が失われるという事例がすでに発生しており、大変な損失であると思うので、そういったようなところの写真などを入れて配慮などを示すというのもいいのかなと。

「(3) 豊かな自然に育まれる文化」の一番下の段落「福島市民としての価値感や気質、風習や暮らしがりとといった生活様式を育んできました。同じ地域に住む人々がみな同じということはありませんが」の部分だが、同じ自然の中にいると同じような形になるというのは少し危険な記述であると感じた。環境決定論というが、今学会では完全に否定されているので、例えば「美しい風景の中で暮らし、特徴のある生活様式を育んできました」くらいならいいかと思う。

【事務局】

ご指摘いただいた表現については検討していきたい。

【委員】

美術館がないために、かつて活躍した福島の画家の目に触れない状態の作品がたくさんある。そういったもの資源として活用できる。

【事務局】

委員のご意見の通り、本市ゆかり画家の作品を展示する場所がないという状況だが、その作品は貴重な文化資源なので当然ながら活用していくものと認識している。

【委員】

旧広瀬座の活用について今回の計画には盛り込まないのか。

【事務局】

具体的な施策については次回以降にお示しすることになるが、旧広瀬座は本市にとって大変貴重な文化財である。現在、2階部分も観客が入るように耐震化工事などを行っているが工事終了後は、これまで以上に積極的な活用を図っていくということが必要になると思っている。今後お示しする施策などでは、そういった部分も触れるようになると思う。

【委員】

福島の明治・大正時代の建物がほとんど残されていない現状だが、近代建築について考えてもいい時期ではないか。

【事務局】

仮に近代建築を入れるとすれば、「(1) 歴史を伝える文化財」の文化的資源の例として「土木遺産・建築遺産」とするということかと思う。

【委員】

福島独自の踊りや民謡を継承していくようなものをいれていただけるといい。

◆別紙2 「2. 本市の文化振興における課題」について質疑応答・委員意見

【委員】

民間で保存されている文化財の状態の把握はどのようにしているのか。

【事務局】

民間の方が所有している指定文化財については、地区ごとに委嘱している文化財パトロール員が年2回ほど状態を確認している。それ以外の指定まで至っていないものについては市がすべての現状を把握、確認することはできていないという状況である。

【委員】

おそらく市で把握できていない文化財が被災したときに文化財レスキューで発見されるというようなことになるのと思うが、被災して初めて発見されるというのは余りにも遅いので、市民が申告できるシステムを作るといいのかもしれない。

【委員】

以前は民家園で年中行事として餅つきやちまきづくりをして、それを来館者に配るなどしていたが、食品衛生法上それができなくなったことで、伝統食を守りづらくなった。「(2) 文化の担い手の高齢化」で「福島らしい文化について思い浮かばない・特にない・わからない」という回答が非常に多かったということだが、なぜ思い浮かばないのか、なぜないと思うのか、なぜわからないのかということを考えることが重要だと思う。

【委員】

「福島市らしい文化」について「思い浮かばない・特にない・わからない」という回答になっているのは、「福島市といえばこれだ」とにいえるようなものが市民の方の中で思い浮かばないのだと思う。これから「福島市らしい文化」を考えていくときに、もっと柱や軸のようなものが必要ではないかと思った。例えば、信夫文知摺は百人一首にも取り上げられている、かつては福島市が信夫と呼ばれていて、信夫山も恋の山としてたくさんの和歌が読まれており、松尾芭蕉も訪れたというような柱を1本立てることで、それに絡めて福島市の多様な歴史文化というものを広げて理解してもらえるのではと感じた。

【委員】

確かにたくさんのものが「福島市らしい文化」として示されているが羅列なのであまり覚えることもできないし、ピンとこない。くだものいろいろなものがたくさん生産されているが全国1位のものはない。そうすると、何かストーリーを作ってそれをもとにして、福島をアピールしていくというような戦略をとってはどうかということでしょうか。

「(6) 文化芸術・文化財関連施設の老朽化」で「音楽堂築40年、古閑裕而記念館築36年」と記載されているが、年が変わるとどんどんずれていくので、音楽堂は何年に建築されたというような書き方のほうがいいのではないか。また、建築年度は元号ではなく西暦で記載したほうが築何年たったかわかりやすいではないか。

【委員】

これからも文化財を次世代へ繋いでいくためには、観光として活用していくことがとても重要になってくるのではないかと考えている。刀鍛冶や盆栽など今まではあまり福島の中で注目されなかったものに海外の方がすごく注目して、福島にわざわざ高いお金を払って来てくれている。観光客を呼び込んで、文化を継承していけるような取り組みを進めていけばいいのではないかと強く感じている。また、先ほど福島のくだもの生産量で1番のものがないというお話があったが、福島市の桃はおいしいから桃の消費量は福島が一番なのだと紹介している。角度を変えると宣伝方法が変わると思う。

【委員】

一番の問題は地域コミュニティが希薄化して、地域に根差した食文化、伝統芸能などが厳しくなっていること。一方、地域を超えて、その地域に住んでない方が文化芸術活動の担い手になるような形も増えてきている。担い手の高齢化が一番課題だとは思いますが、時代が複雑化してきており、これまでの流れと変わってきていると県文化振興計画を策定するときに議論した。

【委員】

工芸の伝統技術伝承というと伝統工芸品の指定などがあつたと思うが、福島市には伝統工芸品制度はあるか。

【事務局】

現在福島市にはない。

【委員】

技術の伝承という点では伝統工芸品制度を作つてそこで継承するということが効果的なのではという印象をもつたので、制度の検討をいただくということも手段かもしれない。

災害などがあつたときに文化財を取り壊さなければいけなくなるというのは非常に大きな問題かと思う。経費も高くかかることだが、維持管理の予算がついて欲しい。

◆別紙3 「1. 本市が目指す文化のまちの姿」について質疑応答・委員意見

【委員】

福島市の文化をどのようにわかりやすく発信するかというのが1つの課題だと思う。

【委員】

これから30年以上過ぎると、もしかしたら福島市の人口が半減するかもしれないということも考えておかなければならないことかと思う。将来、福島市にいてよかったな、あるいは福島市にいて何か明るいものが将来に見える、希望がわく、あるいは創造性豊かな福島市と思えるようなまちづくりをしなければと思う。

【委員】

今ひとつわかりにくい文章かなと思う。求める文化を一言で言ったら何なのかと問われるとなかなか説

明が難しい。いろいろな方面に気を使った文章になっている感じで全体が少しぼやけてしまっているような気がする。何か一本筋を通して書いた方がよりわかりやすい文章にはなるかと思う。市民から声を聞く機会はあるのか。

【事務局】

現在想定している策定のスケジュールから考えると、アンケートや市民を公募で集めてご意見を聞く場などの設定については厳しいと考えている。

【委員】

「福島市らしい文化があります」と書かれているがやはり具体的に想像しづらいというのが読んだ感想としてある。この文章は文化というものに対して定義付けしているのであって、福島市らしい文化について言っているのではないのではと感じた。

【委員】

「日常生活や地域にとけこんでいる」という表現だが、とけこみすぎて福島市らしい文化が少し見えにくくなってしまっているのではないかという印象を「とけこむ」という言葉に感じた。副題の「創造する未来へつなぐストーリー」の「ストーリー」はどのようなものを表すのか。

【事務局】

「ストーリー」という言葉は、これまで伝えてきた文化や今後生まれてくる文化を未来へつなぐことで物語が続くといった意味合いで使っている。

【委員】

これから先、人口が減少してくると外国人が増えてくるが、そのとき福島市でどういう文化を形成していくのだろうかという視点は必要ないのだろうかと感じた。

【委員】

下から2行目の文章がいろんな可能性を含めた形の表現になっていると感じた。

◆その他

次回文化振興審議会開催予定：令和6年6月28日（金）午後